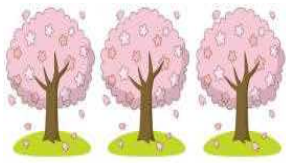


高取小だより

令和7年9月12日



三本桜

第20号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
9月の目標：伝えるあいさつをしよう

美しく自分を染めあげて下さい / サトウハチロー

赤ちゃんのときは白
誰でも白
どんな人でも白
からだや心が
そだっていくのといっしょに
その白を
美しく染めていく
染めあげていく

毎朝目がさめたら
きょうも一日
ウソのない生活を
おくりたいと祈る

夜眠るときにふりかえって
その通りだったら
ありがとうとつぶやく

ひとにはやさしく
自分にはきびしく これをつづけると
白はすばらしい色になる

ひとをいたわり
自分をきたえる
これが重なると
輝きのある色になる ʌ

なんにもかも忘れて
ひとのために働く
汗はキモチよく蒸発し
くたびれもよろこびとなる

こんな日のひぐれには
母の言葉が耳にすきとおり
父の顔が目の中で
ゴムマリみたいにはずむ

生まれてきたからには
よき方向へすすめ
からだや心を大きくするには
よき道をえらべ
横道はごめんだ
おことわりだ
いそがずにちゃくちゃくと
自分で自分を
美しく より美しく 染めあげて下さい



子どもは、自分の持ち味を十分生かしたときに光り輝きます。しかし、これは容易ではありません。試行錯誤の末に身体の中からにじみ出てくるもので、大量の土砂から金を取り出すようなものです。たとえわずかでも輝く砂金が、ようやく見えた「自分らしさ」です。子どもたちには、いつかの日か「自分らしさ」を見つけ、それを美しく染め上げてほしいと願います。

子どもたちの応援団に

今年で『ドラえもん』が雑誌への連載開始から55年となります。ドラえもんが世界中から根強い人気があるのは、のび太やジャイアン、スネ夫、しずちゃんなど「いろいろなタイプの価値観を持った子どもたちが、それぞれの力を発揮して、自分のことを行い、あきらめずに壁を乗り越えようとする大切さ」や「困難を乗り越え、1つの目標に向かって協力し合うという普遍的な価値」が世界中から認められているからでしょう。

例えば、普段ののび太君は、やや頼りなく、困ったことがあるとすぐにドラえもんに助けてもらいますが、自分のことだけでなく、他の人の幸せを願い、一緒に喜んであげられる人でもあります。そして、友人に悲しいことがあったときには、一緒になって悲しんであげることができる人です。簡単に言うと、「人にやさしく、思いやりのある人」ということでしょうか？ 心優しい人には、多くの友が集まり、周囲から好かれ、毎日がより充実した楽しいものになります。その結果、自分が幸せにもなるのです。

子どもたちは、子どもたち同士のかかわりの中で大きく成長していくものです。時には、自分の思い通りにならないことも数多くあります。そのような時、どのように対応すればよいのかを経験の中から身に付けていくのです。周りの大人が手をかけ過ぎると、言われたことしかできない指示待ちの行動にもなりがちです。しかし、困ったこと、つらいことなどをなかなか素直に表現しづらい子どもたちも中にはいます。ご家庭でも、いつもと様子が違う時など話を聞いてください。

ドラえもんの話にあるようにいろいろな子（多様性）が協力すること・あきらめず自分のことを取り組むこと（主体性）は、大きな力となるものです。これは、今も昔も変わることないものです。そのような力を身に付けられるよう、今後も多くの教育活動の中で、子ども同士のかかわりの中で、考え成長する姿を応援していきたいと思います。

